

町医者だより

平成25年12月号

ゼイゼイしない喘息

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ジャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

平成25年最後の町医者だよりは、いつも患者さんに説明している話です。それは喘息ってほとんどゼイゼイしないんですよ、という話です。平成24年3月号の町医者だよりでも「喘鳴の頻度」という話をしていますが、今回はもう少しレベルの高い論文を紹介いたします。

小児の喘鳴の頻度

前回の町医者だより後、もっと格調高い論文を発見しました。英国の呼吸器学会誌のThoraxに掲載された論文です(Lai CKら 64(6):476-483、2009)。

13歳から14歳の子供と6歳から7歳の子供で世界的な規模で喘鳴(ゼイゼイ)の頻度を調査しています。これはISAACという世界規模で行われている小児の喘息とアレルギーの研究の一環として行われた調査です。13歳から14歳の子供に関しては97カ国の233の医療機関から約80万人が対象になり、6歳から7歳の子供では61カ国から約40万人が対象になって2000年から2003年にかけて行われた調査の解析結果です。

13歳から14歳の子供での喘鳴の頻度(調査年1年間にゼイゼイした頻度)は世界規模で平均14.1%で北ヨーロッパ・東ヨーロッパの5.1%からオセアニアの22%まで地域差があります。この論文には世界地図が添付されており、日本の頻度を見ると多くても20%未満です。次いで6歳から7歳のグループを見ると世界規模での喘鳴の頻度は平均で11.5%でインドの6.8%からオセアニアの21.7%までとやはり幅があります。世界地図での表示を見ますと日本でのゼイゼイの頻度は20%未満となっています。ゼイゼイする子供さんの頻度は、収入が少ない国よりも多い国で増える傾向にあります。6-7歳の小児ですら日本でも20%未満(平均で11.5%)しかゼイゼイしないとすると、「ゼイゼイしていないので喘息ではありません」といまだに小児科の先生が説明しているとしたらちょっと怖い話です。ちなみに当院初診時に成人でゼイゼイしている方は5%です。つまり、「ゼイゼイしない喘息」があるのではなく「喘息は(ほとんど)ゼイゼイしない」のです。

小児重症喘息の頻度

この論文には、1年間に4回以上ゼイゼイ発作があったり、喘鳴で1週間に1日ないしそれ以上のペースで睡眠が妨げられるようなことがあった子供さんを重症小児喘息と定義しています。

13歳-14歳のグループでは平均6.9%が重症喘息で、日本は2.5-5%です。6歳-7歳のグループでは、平均4.9%が重症喘息で日本での頻度はやはり2.5-5.0%でした。世界的に見る重症喘息の頻度は、先程のゼイゼイの頻度と異なり、収入が少ない国で頻度が多くなる傾向にあります。この解析で用いられた重症喘息の定義がもしも本当ならば、この基準を簡単に満たしてしまうお子さんが日本ではもっと多くいらっしゃるのではないのでしょうか。5%という数字はあまりにも少なすぎます。